

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

ディプロマポリシー	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S103103	藤井佐知子	教育行政学	教育行政の基本原則と制度を概説し、それらが教育政策にどのように反映されているか、またどのような問題・課題を抱えているかについて具体的なデータと事例を元に講義する。	学部専門教育科目の教育基礎科目に属する科目であり、教育を取り巻く社会的側面や制度的側面、教育経営に関する側面についての基礎知識を授ける。	・公教育の理念と制度に関する基礎的知識を養う。 ・中央・地方の教育行政の具体的姿と課題について理解できる。 ・教育をめぐる権限関係、地方分権、学校の自律性、教育財政などをめぐる今日的課題について理解し、自分なりに考察することができるようになる。	3	3	2	1	2
S103111	藤井佐知子	教育行政学	教育行政の基本原則と制度を概説し、それらが教育政策にどのように反映されているか、またどのような問題・課題を抱えているかについて具体的なデータと事例を元に講義する。	学部専門教育科目の教育基礎科目に属する科目であり、教育を取り巻く社会的側面や制度的側面、教育経営に関する側面についての基礎知識を授ける。	・公教育の理念と制度に関する基礎的知識を養う。 ・中央・地方の教育行政の具体的姿と課題について理解できる。 ・教育をめぐる権限関係、地方分権、学校の自律性、教育財政などをめぐる今日的課題について理解し、自分なりに考察することができるようになる。	3	3	2	1	2
S103200	藤井佐知子	教育制度	公教育制度の基本原則と役割、ならびに発達段階に応じた教育制度の歴史、構造、理念、現状、課題について講義する。	学部専門教育科目の教育基礎科目に属する科目であり、教育を取り巻く社会的側面や制度的側面、教育経営に関する側面についての基礎知識を授ける。	・日本の教育制度の歴史、構造、理念、現状、課題についての基礎的な知識を習得する。 ・自分の経験と客観的な事実を重ね合わせて、さまざまな教育事象を捉え、考察することができるようになる。	3	3	2	1	2
S103308	廣瀬隆人	生涯学習社会論	現代的課題に係わる具体的事象を生涯学習・社会教育の視点から検討していくことによって、生涯学習社会の諸相を明らかにしていく。そのことを通じて、社会的諸事象から「学習」の要素を導きだしていく。この授業では、生涯学習社会を支える市民としての自己教育と相互教育によって自らを高めていくことができる力量の形成を目指す。	この科目は社会教育主事資格を取得する際に必要な科目である。生涯学習概論も履修することによって、社会教育主事資格取得に必要な科目となる。	生涯学習、社会教育の本質について理解を図るとともに、主として学校と地域の連携をベースとした学校との関係性の中で生涯学習社会をとらえ直していく。 ・社会教育・生涯学習の違いを明確に説明できる。 ・小集団学習、共同学習を体験的理解し、小集団で話し合うことができる。 ・社会的事象から、学習要素を抽出し何が社会教育なのかを具体的に説明できる。 ・映像教材から、学習の要素を抽出し、それらをまとめることができる。 ・学校と地域の連携の必要性を説明できる。	3	3	2	2	
S103350	小原一馬	教育社会学	個人と社会の関係を教育現象に着目することで考える。	共通教職の選択科目の一つであり、教師になる上で、教育を社会と個人の関係から見ていく能力を育む。	教育を、個人の視点からだけではなく、社会というレベルで見られるようになる、つまり社会的な見方で見られるようになること。	3	3	1	3	3

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

ディプロマポリシー	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S950000	守安敏久 松島さくら子 黒川亨子 塚本純 小宮秀明 酒井一博	カリキュラム設計演習	総合人間形成課程で2年次から所属する主領域について決定するための、学生の主体的な取り組みを促す授業です。各領域の学問内容を聞き、履修案内をもとに履修構想を立て、必要な授業を見学したり、教員のもとを訪れて話を聴いたりして、それらを省察することもあります。最終的に仮の履修計画を立てて、次年度以降の学びにつなげます。	本演習は、教育学部総合人間形成課程の学生は必修です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域の学問内容や学問方法を知り、理解すること。</li> <li>自分の研究テーマを決めること。</li> <li>研究テーマや選択領域に沿った履修計画が立てられること。</li> <li>授業見学や教員訪問を行うことで、教員とのネットワークを増やすこと。</li> </ul>	2	2	1	3	3
S950005	川原誠司	人間発達領域入門演習	人間発達領域で学んでいくにあたっての基本的情報を提供する。また、必要な情報を自ら収集・活用するためのスキルを養成し、それらを基に自分の進むべき方向性を検討・明確化させていくための授業である。	本授業は、総合人間形成課程の人間発達領域を所属領域(主専攻)にする学生は必修です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の研究テーマについてを深化させること。</li> <li>テーマならびに時間割の制約に沿った履修計画を精緻化させること。</li> <li>研究分野および研究方法について理解すること。</li> <li>就職・進路について明確化すること。</li> </ul>	3	3	2	3	2
S950010	天沼 実 守安敏久	言語文化領域入門演習	日本語と英語を主な対象とした言語および言語文化について、その隣接分野を含め、横断的に考察する。	言語文化領域に関わる普遍的・今日的課題への主体的取り組みに向けて、基本的な専門知識及び技能への導入を図る科目である。	言語の仕組みを客観的にとらえ、考える意識や言葉を通して人間と文化を理解するための基礎的な思考法を身に付けている。	3	3	3	2	2
S950015	長谷川万由美	地域公共領域入門演習	経済、福祉、法律などの観点を中心とした講義、演習や自らの作業を通じて、地域公共領域を把握するために必要な幅広い知識の導入部分を学ぶとともに、当該分野の学習方法について学ぶ。	カリキュラム設計科目の一つである。地域公共領域で取り上げる、福祉などの社会的諸問題や政府の活動としての政策を学ぶために作成している自らの履修計画をより深いものにするための授業であり、専門教育のための基礎となるものと位置付けられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域公共領域の諸問題について課題を見つける方法を身につける</li> <li>自分のキャリア形成に向けて大学でどのように学んでいくかについてより具体的な見通しを持つ</li> </ul>	2	3	2	3	2
S950020	松居誠一郎 酒井一博 佐々木和也	環境創造領域入門演習	環境、環境問題、およびそれに関連する諸分野について演習形式で学ぶ	環境創造領域での学習内容に理解を深め、自主的学習態度を養成する	環境などについての自主的な学習方法の習得および、その分野についての理解を深めること	3	3	3	2	2
S950025	中島 望	芸術文化領域入門演習	芸術の社会性について、あるいは芸術そのものの創造的価値を問う半期講座。芸術文化領域入門演習では、各分野のテーマを明確にし、文献講読、小論発表などを通して、相互に課題を共有し、創意工夫を交換し合うことにより、より効果的な取り組みを考察する。	芸術文化領域入門演習は、3年次の芸術文化演習・、さらに総合人間形成課程卒業研究Aに卒論に繋がるレベル、専門的な研究に繋がる質の高いやり取りを、教員との対話を通じて経験する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分野の今日的課題を明確にし、これまでの演習で培った判断力をより発展的に深める。</li> <li>文献講読や小論発表を通して、情報発信、課題研究発表(プレゼンテーション)などの基礎技能を修得する。</li> <li>深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。</li> </ul>	2	3	2	2	1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

ディプロマポリシー	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S950030	黒後 洋	スポーツ健康領域入門演習	スポーツ健康領域での学習内容について概説するとともに、領域の特性を生かしたフィールドワークなどの演習を行う。	スポーツ健康領域の学習内容について、領域の特性を理解すると共に、フィールドワークを通して実践力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ健康領域のに関する基礎的理論の習得。</li> <li>・スポーツ健康領域に関する諸問題の理解。</li> <li>・スポーツ健康領域に関する実践力の養成。</li> </ul>	3	3	3	2	2
S961000	課程全教員	総合人間形成課程卒業研究 B	ポートフォリオの集約を基に、自らが学んだことをポスター発表する。発表は公開し、多くの人の評価を得るようにする。	本授業は、教育学部総合人間形成課程の学生は必修です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した研究テーマを分かりやすく解説すること</li> <li>・そのテーマの研究知見が社会に還元できることをアピールすること</li> <li>・履修の整合性や一貫性を説明すること</li> <li>・自らが大学の学びで成長した点を明瞭に伝えること</li> </ul>	2	3	2	3	3
S950040	香西秀信	論理的思考演習	Informal Logicのnegative approachとして、虚偽論を応用した論理的思考力の育成を行う。論理的に正しい思考方法を、論理的に正しくない(虚偽の)思考方法を検討することで、裏側から身につけていこうとする試みである。今回の演習では、特に言葉の多義性、言い換えによる虚偽を主として取り上げる。受講生にはあまりなじみのない分野だと思われるので、演習ではあるが、講義的な部分も多くする。	総合人間形成課程の自己啓発科目の一群(基礎力養成科目)をなす科目である。学生が、各専門領域に進み、そこで研究を行うための基礎的な思考力を訓練すると同時に、社会や文化の形成に参加する者としての、日常的な思考力・表現力を向上させるといった目的ももつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非形式的な虚偽についての基本的な知識を修得する。</li> <li>・非形式的な虚偽について、それを発見・分析・検証するための基本的な方法を修得する。</li> <li>・日常生活において、言葉の多義、言い換え等によって生じた誤謬、またはそれを利用した詭弁を見抜けるようになる(少なくともその誤謬であることの可能性に鋭敏になる)。</li> <li>・自らの判断の根拠を、他者にわかりやすく説明することができる。</li> </ul>	2	3	3	2	1
S950040	酒井一博	科学的思考演習	議論をする際、他者への説明が主観的・独断的になってしまうことがある。それを避けるには科学的・論理的に思考することが必要で、そのための知識やスキルを身につけることで冷静な対応が可能となる。論理命題の理解、数学的な思考、統計資料を読み取る力などを通して、事象や問題の本質を科学的な目で捉え、論理的に考える力を養成する。	自己開発科目は、職場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事を行っていく上で必要不可欠な能力を身につけるための科目群である。この授業は、その基礎力を養成するための科目(基礎力養成科目)の中の1つで、物事を科学的な視点から考察し論理的に考えるための知識やスキルを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理命題の基礎を理解し、日常の具体的例を考察できる。</li> <li>・円や三角形についての証明(初等幾何学)を通し、演繹的・帰納的な考え方について学ぶ。</li> <li>・統計資料等を読み取り考察する作業を通して、事象や問題の本質を科学的に捉え、思考できるようになる。</li> </ul>	1	2	3	3	1
S950045	松居	実証的研究演習	野外において地図類の実際的な利用法をまなぶ。また地図でさまざまな事象の空間分布の特性を分析する手法をまなぶ	基礎的知識を実地に適用すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形図の一般的な利用ができること、および地形図が表すシンボルと現実世界の対応が理解できること、および地図上での論理分析の基礎的能力を獲得する</li> </ul>	1	3	3	1	2

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

ディプロマポリシー	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S950050	小原一馬	実証的調査検証演習	「どうしてプロ野球の人気は衰えてきたのか」「どうして沖縄に住む人の所得は低いのか」「どうして子供達の虫歯は減っているのか」「どうして教育学部の女子学生は国際学部より地味なのか」「どうして読書離れは進んだのか」こういう問いが浮かんだときに、それにどう実証的に答えたら良いのかを、実践的に学ぶ。	中学校「社会」、高等学校の「公民」の選択科目であり、社会科教育専攻のみならず、調査による実証に関心を持つものにとつての入門的内容である。	何らかの社会現象に関して、その原因を実証するためにどのようなデータを集めたらよいか知り、実際に集められる。・そのデータをどのように分析したら良いのか知り、実際に分析できる。・その分析結果をどのように示したらよいか知り、実際に示すことができる。	3	3	1	3	3
S100902	中島 望	芸術表現演習	創造のはじまりは模倣という自己固有の体験からである。毎回の実践を通して本来の感性を発見する半期講座。芸術表現演習では、前後5回を除く10回の課題(非公開)を個人、あるいはグループ発表などを通して、個々を活かし、互いに高めあう場とする。	芸術表現の理想は、論理ではなく人の心(情感)に訴え、人の意識を変えることである。芸術、文化は知識のみで理解と判断力を養うことは困難である。芸術体験を通して、「人の心(情動)はどこで生まれるのか」を考える。	・芸術への正しい理解と鑑賞の喜びを深めるための基礎的な知識を養う。 ・創作活動を通して、その表現に足りる技術の修得をする。 ・個々の表現を尊重し、互いの喜び、責任を分かち合う心のあり方を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	3	2	3	3	3
S950060	川島芳昭	情報メディア演習	情報化社会では、情報メディアを適切に活用し、情報の収集、発信等を行うための知識・技能が必要である。この授業では、身の回りにある様々な情報メディアを適切に扱うための知識・技能を演習やグループワークを通して具体的に習得する。	社会における普遍的・今日的課題の解決には、情報メディアの特性を知り、適切に活用するための知識・技能が必要である。本授業では、そのための基礎・基盤である。	・情報メディアの定義を知り、説明することができる。 ・情報メディアの特性を知り、必要に応じて活用することができる。 ・情報メディアの危険性を知り、安全な活用をすることができる。	3	2	3	1	1
S950065	川原誠司	コミュニケーション演習A	コミュニケーション能力は、学士そして社会人になる者が身につけておくべき能力として非常に重要視されている。本授業では、コミュニケーションの様々な形態について実習を行う。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、「人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける」という目標に対応している。	・相手との関係の中での円滑な自己表現スキル、集団内での明瞭なコミュニケーション能力を涵養すること。	1	2	3	3	3
S950066	白石智子	コミュニケーション演習B	コミュニケーション能力は、学士そして社会人になる者が身につけておくべき能力として非常に重要視されている。本授業では、コミュニケーションの様々な形態について実習を行う。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、「人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける」という目標に対応している。	・相手との関係の中での円滑な自己表現スキル、集団内での明瞭なコミュニケーション能力を涵養すること。	1	2	3	3	3
S950067	白石智子	コミュニケーション演習C	コミュニケーション能力は、学士そして社会人になる者が身につけておくべき能力として非常に重要視されている。本授業では、コミュニケーションの様々な形態について実習を行う。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、「人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける」という目標に対応している。	・相手との関係の中での円滑な自己表現スキル、集団内での明瞭なコミュニケーション能力を涵養すること。	1	2	3	3	3

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

ディプロマポリシー	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3: DP達成のために特に重要な目標 2: DP達成のために重要な目標 1: DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S950070	川原誠司	メンタルヘルス実習A	ストレスマネジメント、心身相関などの精神的メカニズムについての講義、心理テストやグループワーク等の実習を行なう。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、“人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける”という目標に対応している。	・精神的健康および自己分析の能力を高めること。 ・自らの言動についての省察力を高めること。 ・改善策を考慮し、そのための不断の働きかけを考慮できること。	1	3	2	3	3
S950070	白石智子	メンタルヘルス実習B	ストレスマネジメント、心身相関などの精神的メカニズムについての講義、心理テストやグループワーク等の実習を行なう。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、“人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける”という目標に対応している。	・精神的健康および自己分析の能力を高めること。 ・自らの言動についての省察力を高めること。 ・改善策を考慮し、そのための不断の働きかけを考慮できること。	1	3	2	3	3
S950070	白石智子	メンタルヘルス実習C	ストレスマネジメント、心身相関などの精神的メカニズムについての講義、心理テストやグループワーク等の実習を行なう。	本授業は、総合人間形成課程の必修科目である実践力養成科目であり、“人間形成への基盤となる理論と実際を両面にわたって学習し、実践的能力を身につける”という目標に対応している。	・精神的健康および自己分析の能力を高めること。 ・自らの言動についての省察力を高めること。 ・改善策を考慮し、そのための不断の働きかけを考慮できること。	1	3	2	3	3
S950075	松居誠一郎 長谷川万由美 廣瀬隆人 黒後 洋 陣内雄次 塚本純 中島望	プロジェクト研究	プロジェクト研究では、学生が実際の事業を企画立案し、計画作成を体験しながら、主体的に社会現場を観察しつつ参画する。これらの活動をおおして、実行することや公表することの意味を理解しながら、事業の企画立案・実施評価に必要な知識・技術を育成する。「プロジェクト研究」では、次年度の「プロジェクト研究」につながる前段階として、教員などが立案した事業に参加し、学習の第一歩とする。	教育学部総合人間形成課程の「自己開発科目」の1つであり、課程の学生は必修である。能動的な計画立案能力を養成する「実践力養成科目」に位置し、2年次前期に同科目の「コミュニケーション演習」を履修していること。	以下の行動を、教員の補助を受けながら出来るようになること 1) 考えるだけでなく実際に動いてみることにより、次のよいアイデアへつなげること 2) コミュニケーション力を生かし、対象となる人としっかり接触し・交流すること 3) 学んだことの社会的還元を意識し、活動の過程および結果などを公開・伝達すること ・「発想力・計画力」や「発信力・コミュニケーション力」をもとにして、実社会で生かされる「実行力・実践力」の初歩を身につける	2	3	2	2	3

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (総合人間形成課程 共通部分)

ディプロマポリシー	<p>(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。</p> <p>(B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。</p>
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S950080	中島望 長谷川万由美 廣瀬隆人 黒後 洋 陣内雄次 塚本純 松居誠一郎	プロジェクト研究	<p>実行することや公表することの意味を理解しながら、事業の企画立案・実施評価に必要な知識・技術を育成する「プロジェクト研究」の後半である。「プロジェクト研究」では、「プロジェクト研究」を踏まえて、学生自らも事業の企画立案や計画作成に携わり、その後事業に参加しながら、主体的に社会現場を観察しつつ社会参画を体験し、学習を発展させる。</p>	<p>教育学部総合人間形成課程の「自己開発科目」の1つであり、課程の学生は必修である。計画立案能力を養成する「実践力養成科目」の最後の段階に位置している。2年次前期開講の同科目「コミュニケーション演習」、および2年次後期開講の「プロジェクト研究」を履修していること。また、3年次に「メンタルヘルス実習」を履修すること。</p>	<p>以下の行動を、自らが企画・立案に参加しながら能動的に行うことが出来るようになること</p> <p>1) 実際に動いてみることから、その意味を振り返り、次にどのように実践するかを具体的に考えることができる</p> <p>2) より深くコミュニケーション力を発揮し、対話を通じて思考できるようになる</p> <p>3) 周知伝達技術の技術を身に付け、自己や他者の評価によって学んだ成果の質を高めていくことができる。</p> <p>4) 「発想力・計画力」や「発信力・コミュニケーション力」をより高度に生かすことができるようになり、社会で通用する「実践力」の基礎を身に付ける。</p>	2	3	2	3	3